

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・小幡 祐可子						
担当教員	福田 洋子・小幡 祐可子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>【概要】これから始まる4年間の大学生生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、受講生にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりま</p> <p>この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができる。 ②受講生自身の大学生生活をより充実させることができる。</p>						
授業計画 Syllabus	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ 第4回 社会で生きる 第5回 社会が求める人材って？ 第6回 コミュニケーションは社会のベース 第7回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第8回 社会のトレンドを読む！ 第9回 社会と学問の関係は？ 第10回 「学び」の意味を考えよう！ 第11回 私のキャリアデザインマップ① 第12回 私のキャリアデザインマップ②～発表 第13回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第14回 まとめ 第15回 低学年から意識すべきこと・取り組むべきこと						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	出席平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを提出。（出席もこれで確認）テーマは講師が指定。 提出回数8回以下だと0点、9回で20点、10回で25点、11回で30点、12回で35点、13回で40点、14回で45点。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含むので、参加態度がよくない場合は減点する。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出する。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出する。（40点満点） 具体的な課題内容については、講座終盤に発表し、提出の予定。						
履修上の注意 Requirements and policy	教科書は必ず毎回持参すること。（ワーク等で使用する） 「キャリアデザインII」も履修すること。 社会人への準備期間としての受講態度を望みます。						
教科書 Textbook(s)	MY CAREER NOTE I (ADVANCE)						
参考書 Reference(s)	適宜紹介します。						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインII／福田 洋子・池松 華奈子						
担当教員	福田 洋子・池松 華奈子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。</p> <p>【概要】本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）のための準備や練習を今のうちから始めることができる。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができる。</p> <p>*ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではなく、この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものである。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施</p> <p>第2回 就職活動の流れを知る</p> <p>第3回 社会で求められる基本スキルを知る</p> <p>第4回 コミュニケーション力を身につける① ～基本スキル編～</p> <p>第5回 思考力を身につける① ～「なりたい自分」の基準づくり～</p> <p>第6回 思考力を身につける② ～自分の強み探究～</p> <p>第7回 エントリーシートを記入してみる</p> <p>第8回 情報収集を身につける① ～業界リサーチ～</p> <p>第9回 情報収集を身につける② ～職業・職種リサーチ～</p> <p>第10回 思考力を身につける③ ～「なりたい自分」への戦略づくり～</p> <p>第11回 遂行力を身につける①</p> <p>第12回 コミュニケーション力を身につける② ～プレゼンテーション準備編～</p> <p>第13回 遂行力を身につける② ※プレゼンテーション・課題提出、チェックシート実施</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 「これから卒業までの間に取り組まなければならないこと」についての話</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	<p>出席平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを提出。（出席もこれで確認）テーマは講師が指定。 提出回数8回以下だと0点、9回で20点、10回で25点、11回で30点、12回で35点、13回で40点、14回で45点。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含むので、参加態度がよくない場合は減点する。</p> <p>②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出する。（55点満点） 具体的な課題内容については、講座終盤に発表し、提出の予定。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>「キャリアデザインI」を履修していることが望ましい。</p> <p>教科書は必ず毎回持参すること。（ワーク等で使用する）</p> <p>社会人への準備期間としての受講態度を望みます。</p>

教科書 Textbook (s)	MY CAREER NOTE II
参考書 Reference (s)	適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザイン研究／単位認定者：朴 熙成						
担当教員	単位認定者：朴 熙成						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>国際化・情報化の急激な進展、産業構造の変化など、現代社会は目まぐるしいほどの速さで変革が進められてきている。</p> <p>このような状況の中で、現代社会を生きるためには、どのような職業観や勤労観を持って働いたらよいか、また、どのような人生観を持って生きて行くことがよいかという自らのキャリアデザインを描くことが重要である。</p> <p>そこで、本講義ではこれらを描くための能力を養うことを目的とし、各界から講師を迎え、企業の現状と今後について実践的な立場から学習することにより職業観・勤労観を学ぶことができるように、また、社会の先輩の持つ多様な人生観に触れることができるようにオムニバス形式で実施する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアプランについて 2. 人生をいかに生きるか 3. 生きるということ・働くといくこと—現代女性にとって 4. 企業の現状と今後—金融・保険業 5. 企業の現状と今後—情報通信業 6. 企業の現状と今後—運輸業 7. 企業の現状と今後—サービス業 8. 企業の現状と今後—宿泊業 9. 企業の現状と今後—卸売・小売業 10. 企業の現状と今後—製造業 11. 企業の現状と今後—証券業 12. 人生をいかに生きるか—心と体の健康 13. 人生をいかに生きるか—仕事 14. 今、社会人として求められるもの 15. 総括
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	オムニバス講義形式で実施する。
評価方法 Evaluation	各回提出していた小レポートの4段階評価（65%）、平常点（20%）、最後の小レポート（15%）などで総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視する。この講義はオムニバス形式なので、毎回出席するよう心がけること。受講者数は100名とする。受講者多数の場合は抽選をする。
教科書 Textbook(s)	指定なし。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	後期は3年生を対象とする。

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	金融リテラシー／倉島 進・植田 麻衣子						
担当教員	倉島 進・植田 麻衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなると取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得や、ファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 お金を稼ぐということ 3 ライフプランとは 4 ライフプランニング(実習) 5 【まもる】生命保険の知識 6 【まもる】給料にまつわる知識 7 【ためる】金融商品のしくみ 8 【ためる】金融商品のしくみ 9 【つかう】子供の教育って 10 【つかう】車や家の購入のしかた 11 【おさめる】税金の知識 12 【のこす】贈与・相続に関する知識 13 【かながえる】ライフプランニング(実習) 14 終了試験 15 ライフプランの発表会選抜による発表 <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー(ファイナンシャルプランナー)による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>
評価方法 Evaluation	評価は、出席と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	金融リテラシー／倉島 進・植田 麻衣子						
担当教員	倉島 進・植田 麻衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなると取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得や、ファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 お金を稼ぐということ 3 ライフプランとは 4 ライフプランニング(実習) 5 【まもる】生命保険の知識 6 【まもる】給料にまつわる知識 7 【ためる】金融商品のしくみ 8 【ためる】金融商品のしくみ 9 【つかう】子供の教育って 10 【つかう】車や家の購入のしかた 11 【おさめる】税金の知識 12 【のこす】贈与・相続に関する知識 13 【かながえる】ライフプランニング(実習) 14 終了試験 15 ライフプランの発表会選抜による発表 <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー(ファイナンシャルプランナー)による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>
評価方法 Evaluation	評価は、出席と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーション能力をスキルアップする。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考え、説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解など ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明・立論・尋問・反駁 ⑪ディベートⅡ 三角ロジック ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ ロジックの構造 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ・まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、出欠点（欠席した場合は減点）【30%】、演習評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので休まずに出席すること。 とくに後半の演習では、グループ内のメンバーに迷惑をかけるので休まないこと。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーション能力をスキルアップする。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考え、説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解など ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明・立論・尋問・反駁 ⑪ディベートⅡ 三角ロジック ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ ロジックの構造 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ・まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、出欠点（欠席した場合は減点）【30%】、演習評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。 とくに後半の演習では、グループのメンバーに迷惑をかけるので休まないこと。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、自己紹介、自分の得意分野をプレゼンしたり、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「自分ブランド」を確立します。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦 ⑥聴く技術 ⑦面接の技術を磨く ⑧自分の得意分野をプレゼンする ⑨演劇的手法を学ぶ ⑩自分ブランドとは何か？ ⑪「10年後の自分」を語る ⑫人の態度を読む ⑬敬語の役割と種類 ⑭笑いを取る ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。 そのため「演劇手法」なども取り入れます。
評価方法 Evaluation	平常点～30%、普段の表現の進歩～40%、スピーチの成果～30%です
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、自己紹介、自分の得意分野をプレゼンしたり、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「自分ブランド」を確立します。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦 ⑥聴く技術 ⑦面接の技術を磨く ⑧自分の得意分野をプレゼンする ⑨演劇的手法を学ぶ ⑩自分ブランドとは何か？ ⑪「10年後の自分」を語る ⑫人の態度を読む ⑬敬語の役割と種類 ⑭笑いを取る ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。 そのため「演劇手法」なども取り入れます。
評価方法 Evaluation	平常点～30%、普段の表現の進歩～40%、スピーチの成果～30%です
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ディベートを実践し、審査にも加わることで客観的な判断力を身につける。 対極からの論理構築と議論の強弱を判断することで、問題解決能力を涵養する。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> ①ディベート概説 立論・尋問・反駁のポイント ②立論の作成 問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践I 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践II ショートディベート演習1 ⑥ディベート実践III ショートディベート演習2 ⑦ディベートI 論理の構造・ディベート準備 ⑧ディベートII ディベート演習1 ⑨ディベートIII ディベート演習2 ⑩サッカーディベートI 説得の構造・ディベート準備 ⑪サッカーディベートII サッカーディベート演習1 ⑫サッカーディベートIII サッカーディベート演習2・ディベート準備 ⑬ロングディベートI ロングディベート演習1 ⑭ロングディベートII ロングディベート演習2・まとめ ⑮ディベート審査 モデルディベートをジャッジする
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	出欠点（欠席した場合は減点）【30%】、演習評価【40%】、客観的判断力評価【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時間	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	出席・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	出席・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	出席・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント／福田 洋子・林 裕子						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。 ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、エンターテインメント産業のサービスや仕事等を題材に取り当てながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、想像できるようになることをめざす。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ホスピタリティとは 3. ホスピタリティと人間 4. ホスピタリティと文化 5. ホスピタリティと産業 6. ホスピタリティとコミュニケーションⅠ 7. ホスピタリティとコミュニケーションⅡ 8. ホスピタリティとコミュニケーションⅢ 9. ホスピタリティの評価 10. ホスピタリティ・マネジメントⅠ 11. ホスピタリティ・マネジメントⅡ 12. 事例研究(エンターテインメント企業) 13. 事例研究(ホテル産業) 14. 事例研究(エアライン) 15. テスト
参照URL Reference URL(s)	<p>講義方式だが、ホスピタリティとコミュニケーションの回では演習を行う。ホスピタリティと評価の回では発表を行う。 また、毎回授業中に必ず簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについて自分なりの考え方などを問うもので授業で取り上げる、各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p>
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席平常点(30%)、毎回の課題提出(15%)、テスト(50%)、授業態度(5%)とし、総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。(挨拶、言葉遣い、態度等) ゲストスピーカーが来るときは、服装を市営する。(ビジネスカジュアル等、詳細は授業中に説明する) 観光・航空・飲食等サービスに係る記事に注意しておくこと。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストはなし。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント／福田 洋子・林 裕子						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ホスピタリティの探求。 ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、エンターテインメント産業のサービスや仕事等を題材に取り当てながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、想像できるようになることをめざす。
授業計画 Syllabus	1. オリエンテーション 2. ホスピタリティとは 3. ホスピタリティと人間 4. ホスピタリティと文化 5. ホスピタリティと産業 6. ホスピタリティとコミュニケーションⅠ 7. ホスピタリティとコミュニケーションⅡ 8. ホスピタリティとコミュニケーションⅢ 9. ホスピタリティの評価 10. ホスピタリティ・マネジメントⅠ 11. ホスピタリティ・マネジメントⅡ 12. 事例研究(エンターテインメント企業) 13. 事例研究(ホテル産業) 14. 事例研究(エアライン) 15. テスト
参照URL Reference URL(s)	講義方式だが、ホスピタリティとコミュニケーションの回では演習を行う。ホスピタリティと評価の回では発表を行う。 また、毎回授業中に必ず簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについて自分なりの考え方などを問うもので授業で取り上げる、各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席平常点(30%)、毎回の課題提出(15%)、テスト(50%)、授業態度(5%)とし、総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。(挨拶、言葉遣い、態度等) ゲストスピーカーが来るときは、服装を市営する。(ビジネスカジュアル等、詳細は授業中に説明する) 観光・航空・飲食等サービスに係る記事に注意しておくこと。
教科書 Textbook(s)	テキストはなし。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント／福田 洋子・林 裕子						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。 ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、エンターテインメント産業のサービスや仕事等を題材に取り当てながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、想像できるようになることをめざす。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ホスピタリティとは 3. ホスピタリティと人間 4. ホスピタリティと文化 5. ホスピタリティと産業 6. ホスピタリティとコミュニケーションⅠ 7. ホスピタリティとコミュニケーションⅡ 8. ホスピタリティとコミュニケーションⅢ 9. ホスピタリティの評価 10. ホスピタリティ・マネジメントⅠ 11. ホスピタリティ・マネジメントⅡ 12. 事例研究(エンターテインメント企業) 13. 事例研究(ホテル産業) 14. 事例研究(エアライン) 15. テスト
参照URL Reference URL(s)	<p>講義方式だが、ホスピタリティとコミュニケーションの回では演習を行う。ホスピタリティと評価の回では発表を行う。 また、毎回授業中に必ず簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについて自分なりの考え方などを問うもので授業で取り上げる、各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p>
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席平常点(30%)、毎回の課題提出(15%)、テスト(50%)、授業態度(5%)とし、総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。(挨拶、言葉遣い、態度等) ゲストスピーカーが来るときは、服装を市営する。(ビジネスカジュアル等、詳細は授業中に説明する) 観光・航空・飲食等サービスに係る記事に注意しておくこと。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストはなし。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>会社の儲ける仕組みをのぞいてみよう 社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。 言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。 簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。 この授業では、簿記に慣れししんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。 本講座を通じて簿記の基礎知識を得るとともに、参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 9月27日 その他債権債務 第2回 10月4日 資本金、税金、貸倒 第3回 10月18日 帳簿組織/伝票会計 第4回 10月25日 試算表のしくみ 第5回 11月1日 決算とは(流れ) 第6回 11月8日 決算修正作業 第7回 11月15日 決算整理作業 第8回 11月22日 決算整理作業 第9回 11月29日 精算表の作成 第10回 12月6日 精算表の作成練習 第11回 12月13日 帳簿の締切 第12回 12月20日 報告書の作成 第13回 1月17日 報告書作成演習 第14回 1月24日 後期試験 第15回 1月31日 後期総まとめ</p> <p>皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説していきます。 最終的には、日商簿記3級試験の合格レベルまで説明します。</p>
評価方法 Evaluation	<p>定期試験に、講義中の行う小テスト、出席状況を加味する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと。 また、簿記・会計Aの履修後の履修が望ましい。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>知る・わかる・わかる はじめての簿記入門(セルバ出版)</p>
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。 日商3級精選問題集 著 浜田勝義(かんき出版)</p>
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>会社の儲ける仕組みをのぞいてみよう 社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。 言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。 簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。 この授業では、簿記に慣れししんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。 本講座を通じて簿記の基礎知識を得るとともに、参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 9月27日 その他債権債務 第2回 10月4日 資本金、税金、貸倒 第3回 10月18日 帳簿組織/伝票会計 第4回 10月25日 試算表のしくみ 第5回 11月1日 決算とは(流れ) 第6回 11月8日 決算修正作業 第7回 11月15日 決算整理作業 第8回 11月22日 決算整理作業 第9回 11月29日 精算表の作成 第10回 12月6日 精算表の作成練習 第11回 12月13日 帳簿の締切 第12回 12月20日 報告書の作成 第13回 1月17日 報告書作成演習 第14回 1月24日 後期試験 第15回 1月31日 後期総まとめ</p> <p>皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説していきます。 最終的には、日商簿記3級試験の合格レベルまで説明します。</p>
評価方法 Evaluation	<p>定期試験に、講義中の行う小テスト、出席状況を加味する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと。 また、簿記・会計Aの履修後の履修が望ましい。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>知る・わかる・わかる はじめての簿記入門(セルバ出版)</p>
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。 日商3級精選問題集 著 浜田勝義(かんき出版)</p>
備考 Remarks	